



特集 小規模特認校

今月のテーマは「小規模特認校」。現在、市内では7校の小学校と義務教育学校が小規模特認校に指定されています。少人数の学校だからこそできる教育や支援。市内の小規模校の様子や来年度から小規模特認校に指定される高林中や箒根中について紹介します——

表紙写真は、箒根中での「先生たちへの挑戦」の一コマ。生徒と先生が昼休みに真剣勝負を繰り広げています。

小規模だから 魅力いっぱい

一定の条件の下、学区外から希望の小中学校などに通学できる小規模特認校制度。小規模校であることのメリットを最大限に生かして、各学校で工夫を凝らし、小規模校「ならではの」の取り組みが行われています。



塩原が誇る清流・箒川の清掃や除草をする箒川リフレッシュ大作戦。地元の漁協や消防団などと協力しながら、地域に根付いた活動が行われている。(塩原小中学校)

一人一人に対する手厚い指導や独自の活動など特色ある教育を行う小規模特認校。現在、市内では波立小・高林小・青木小・関谷小・大貫小・横林小・塩原小中学校の7校が指定されている。地域と連携し、歴史や特色を生かした活動をしたり、学校独自の方針に基づいて多様な教育を実施したりと充実した学習環境が整えられている。それら小規模特認校には一定条件の下、従来の通学区域外からも通学が可能で、市内で59人の児童が希望する小規模特認校で学んでいる。



アジア学院に在籍する外国人農業実習生と交流するグローバルタイム。英語でのコミュニケーションを楽しみながら学ぶ。(波立小学校)

小規模特認校制度が始まった背景にあるのは、児童数の減少。市内の0～14歳の年少人口は、昭和60年の約2万3千人から令和元年には1万5千人となるなど減少の一途をたどっており、令和22年には1万1千人と、ピーク時の半分以下になる予測もある。そのような中で、学級数も次第に減り、二学年で一つの学級を構成する複式学級が増加。しかし、集団での話し合いや共同での作業に制約が生じるなどの問題も顕在化。また、切磋琢磨する機会も少なく、クラス替えもないため、入学から卒業まで人間関係が固定されるといった影響も指摘されてきた。

それらを解決するため、市は平成22年に小中学校適正配置基本計画を策定し、複式学級の解消に向けた取り組みをスタート。平成24年から小規模特認校を設置したり、平成26年から順次学校の統廃合を進めたり、平成29年には義務教育学校制度を取り入れた塩原小中学校が新たに開校したり。令和2年度からは高林中と箒根中が新たに小規模特認校に加わり、令和5年度には関谷小・大貫小・横林小・箒根中が一つとなる新たな義務教育学校も誕生する。今回の特集では、小規模特認校での教育の様子や来年度新たに加わる中学校2校の魅力を紹介していく。



グループで話し合った後、全員が黒板前に集まり意見発表や意見交換。少人数の特色を生かした対話的で深い学びを行っている。(高林小学校)

姉妹都市・オーストリア共和国リンツ市からの訪問団が来校。青木小の創設者・青木周蔵の子孫らと交流を行った。(青木小学校)



地域に生息する生き物の飼育活動。空飛ぶ宝石といわれる国蝶「オオムラサキ」の羽化を目指し、幼虫を観察しながらみんなで育てた。(大貫小学校)



ハロープラザと共同で開催した3世代交流事業。子ども、親、祖父母や地域住民が協力しながら楽しくまんじゅうを作った。(関谷小学校)

冬季には学校近くの田んぼを借りてスケートリンクを整備。元フィギュアスケート選手を講師に招き、スケートの授業を行っている。(横林小学校)





年3回開催されるマラソン大会。日頃の練習の成果を発揮しよう子どもたちの表情は真剣そのもの。



11月の学校祭(波小祭)で行われた英語劇。大きなかぶを引っ張る掛け声ももちろん英語。保護者や地域の人が見守る中、一生懸命に英語で演じきった。

interview



波立小学校 校長
渡邊 法子 先生

一人一人に 寄り添った 学びと成長を

アジア学院との交流や学校祭での英語劇。そして年3回のマラソン大会。大規模校ではなかなか経験できない、独自の活動を展開する波立小学校。それらの活動に込めた思いとは――

きめ細かな教育を

全児童112人のうち、28人が学区外から通う波立小。年々その割合は増え、4人に1人とまでになった。「きめ細かな教育を心掛けていることが、選ばれる理由なんですかね」。学区外からの児童増加の理由を尋ねると、そう控えめに答えた渡邊校長。波立小の教育方針は学びの中の「出来た!」や「分かった!」という感動の瞬間を大切にすると笑顔いっぱい学びづくり。「でも分からない時は、素直にそう伝えられる関係づくりも大切」と信頼関係の

重要性を語り、「小さな声にも耳を傾け、一人一人に寄り添った教育をした」と思いを伝えてくれた。「分からなくても大丈夫」。そんな深い愛情に支えられ、多様な学びが提供されている。

英語にマラソン 独自の教育

「What sports do you like?」(どんなスポーツが好き?) 子どもたちの元気な英語が飛び交う教室。年に2回、アジア学院の実習生が学校を訪れ、母国の紹介やゲームで交流する。今年はやメリカとドイツ、キリバスからの実習生が母国の生活や文化を紹介。「目を輝かせ、真剣に耳を傾ける姿が印象的でした」と渡邊校長は交流の様子を振り返り、「単語や文法を覚えるよりも、心の壁を取り払って交流する楽しさを感じてほしい」と活動への期待を寄せた。

昨年11月の学校祭では6年生が英語の劇を披露。観客にも参加を呼びかけるなど工夫を凝らした自作劇は、白雪姫や大きなかぶなど4つの物語。「大勢の前で、しかも英語での発表。少人数なので全員にセリフがあり、貴重な経験になっていきます」。子どもたちの堂々とした演技に、観客からは絶賛の声が届いたという。

英語教育以外に力を入れているのが「マラソン」。マラソン大会は年3回行われ、子どもたちは自ら目標を立て、毎朝10分間の朝マラソンに汗を流す。

「人と比べるのではなく、自分の目標を立てること。そして、自分に打ち克ち最後までやり遂げることが大切」と活動の意義を語った渡邊校長。マラソン大会当日には「〇〇さん、最後まで頑張って」と元気な声援が飛び、走者の背中を押している。小規模だからこそ、一人一人の名前を呼び合える子どもたち。もちろん先生も全ての児童と保護者の顔を覚えらる。「日常の何気ない会話でも、名前を呼び合えるのって大切だと思います」。一人一人が大切にされ、尊重される波立小。「本校への通学を検討している方は、まずはお気軽に見学をしに来てください」と渡邊校長は話してくれた。

小規模特認校をもっと知りたい人は…

小規模特認校では随時希望者の見学を受け入れています。子どもの通学を検討している人やもっと詳しく知りたい人は、まずは**函**学校教育課まで問い合わせてください。

▶**小規模特認校** 波立小学校、高林小学校、青木小学校、関谷小学校、大貫小学校、横林小学校、高林中学校、箒根中学校、塩原小中学校

▶**対象者** 子ども・保護者とも市内(小規模特認校の学区以外)に居住しており、保護者の責任で卒業まで通学できる人

▶**問い合わせ** 函学校教育課 ☎0287(37)5289

波立小学校へ子どもを通わせている 保護者に感想を聞きました――

入学前に授業を見学し、一人一人を丁寧に教えている様子を見て、すぐに入学を決意しました。入学後は上級生が下級生を優しく面倒みてくれたり、先生も親身に相談に乗ってくれたり、この学校にして良かったと日々実感しています。

周囲からはクラス替えがないことや通学の送り迎えの大変さを心配されますが、特にマイナスには感じていません。送り迎えは、先生と交流する良い機会です。その会話をきっかけにして、放課後学習や朝の読み聞かせのボランティアに参加したりと、私自身多くの経験をさせていただいています。子どもたちの元気な姿を見るのは楽しみです、自分も役に立っている実感が、とてもやりがいを感じています。

もし、小規模特認校への通学を検討しているのであれば、まずは見学することをおすすめします。



interview

波立小学校 保護者
あしざわ ゆう
芦澤 優 さん



蕎麦を繋ぐ そばでつながる

interview



高林中学校 校長
江連 宏昌 先生

地域の特色である「そば」を通して、地域を学び、地域と交流する高林中。そばゼミやそばフェスタは、生徒の自主性や表現力を育てる良い機会となっている。来年度から小規模特認校に指定される高林中の取り組みを紹介する――

そばを通して地域を学ぶ

一人一人に対し手厚い教育が提供されている高林中。現在、91人の全校生徒に対し、先生は24人。生徒30人に4人の先生が指導する授業もある。「仮に失敗しても、やり直せる。人数が少ないから、誰一人として埋もれないよ」と江連校長はとても朗らかに話した。その言葉からは、家族が子どもをそっと見守るようなそんな温かさを感じた。

「これからは、自分を表現する力も必要。学んだことをみんなの前で発表し、自信をつけてもらえれば」。そんな思いから昨年度から実施している「そばゼミ」。学年を混合した縦割り班で活動し、地域の食材や食文化を学ぶ。そばを栽培したり、そばを使ったお菓子を考案したりと班のテーマはさまざまで、生徒たちが自ら決定する。地域の蕎麦屋に話を聞きに行くなど、地域に出て行ってつながりを持つきっかけとなっている。

育てたいのは地域への愛着

今年で20年目を迎えた高林中最大のイベント「そばフェスタ」。地元でそば愛好会などから指導を受け、2人1組でそばを打つ。「そば打ちは難しく、大人数では実施できない。少人数だからこそ指導が行きわたる」。手厚い指導を受けてきたベテランの先輩が、ペアを組む後輩に指導。このそばは敬老会に参加する高齢者にも振る舞われ、毎年感謝の言葉が学校に届くという。「生徒たちもこの日を楽しみにしている。事前のそばゼミの学習が生きるの達成感があるのじゃないか」と笑みをこぼし、「学んできたものが形となり、点と点が線につながる。生徒の表情も自信に満ちているのがよくわかります」と成果を振り返った。

interview

こうりんじ 住職

きみしま はるみつ
君島 春光 さん



20年前にふとしたきっかけで始まったそばフェスタも、今では恒例となりました。子どもたちは昔も今も素直で真面目。上級生と下級生がペアになり、教えながらそばを打つ様子は微笑ましいですよ。そんな姿を見ると私も自然と力が入るし、やりがいを感じます。昨年度から始めた「そばゼミ」も、自主性を高める良いきっかけになっているようです。卒業生からは「そばフェスタではお世話になりました」と言われることもありますよ。

成長して大人になったとき、子どものころの楽しかった思い出はきっと励みになります。地元の先輩として、子どもたちには地域を好きになってほしいし、そんな思いがこれからもつながっていけば良いと思います。

そばは生地をつなげて作るもの。そばを通して思いを伝え、人と人もつながっていけば、子どもたちにとっても良い地域になると信じています。

「地域の人の支えがあるからこそ、貴重な学びを届けられる。本当にありがたい」と地域への感謝を述べた江連校長。「そばを通じて、地域を知り、人を知って、高林を好きになってくれれば」と子どもたちへの期待を語ってくれた。

interview



かんた やわた
八木沢 貫太 さん

そばフェスタでは、そばを一から自分の手で作ります。難しいけど、去年からの成長が感じられるのが魅力です。そばは地域の特産品。そば作りはこの学校でしかできないですし、地域の人と関われるのが楽しいです。小規模校だけ色々な人と関われるし、縦割りの活動も多いので、学年や性別もあまり関係ありません。この学校のそんなところが魅力です。

interview

高林中2年生にそばフェスタの感想を聞きました



うえだ うたこ
植田 詩子 さん

生地を薄く延ばすのが難しいですが、自分で考えて、工夫しながらそばを打つのは楽しいです。地域の方も小さい頃からの知り合いが多く、地域ならではの温かみを感じます。高林中は人数が少ないので、全員の顔と名前が覚えられます。また一人一人に色々な役割が与えられ、その分経験も広がりますし、思い出も増えるのでこの学校が大好きです。





試合が終わればノーサイド。直前まで激しい勝負を繰り広げていた相手でも、試合が終わればこの笑顔。



1記念すべき1回目の対決は小雨が降中の100m走。ここから先生と生徒の真剣勝負が始まった 2多くの生徒が見守る中での暗算対決。結果は生徒に軍配が上がった 3高いレベルで接戦が繰り広げられた卓球対決。応援に駆け付けた生徒から声援が飛び 4職員室前の廊下に張り出された挑戦結果。過去の対決が写真付きで紹介されている 5アナウンスで盛り上げる放送部員。メモは名前と対決内容が書かれているだけで、あとは即興で言葉を操る

interview

先生たちへの挑戦の感想と箒根中の学校生活について話を聞きました



岸井 紅男 さん

校長先生と将棋で対決して、勝つことができました。これまで対戦してきた相手の中で一番強かったです。勝った時の達成感は今でも忘れられません。



吉澤 希来 さん

バレーボール対決では、かなり接戦だったのですが、力及ばず負けてしまいました。学校の魅力は、少人数だからこそ活躍の機会が多いところだと思います。



伊藤 ひでき さん

バレーボールとバドミントンで対決しましたが、あえなく完敗。次こそは勝ちたいです。この学校は生徒もみんな明るくて、先生にも気軽に相談できるので、学校は大好きです。

た。 全全全で自己ベスト 箒根中に通う生徒は92人。一人一人を大切に、個性を伸ばす教育が進められている。田崎校長に教育の理念を聞くと、間髪入れず「全全全で自己ベスト」との答え。意味を尋ねると「教職員全員で全生徒を全力で育み、自己ベストを達成させる」と話し、「人は誰も得意不得意があるので、他人と比べてはダメ。自分の目標を掲げ、小さな一歩の積み重ねが大切」と思いを明かした。「まずは自分をj知ること。そして、目標に向けてベストを尽くす」。箒根中では生徒の主体性を大切にしながら、全教職員が全生徒を全力でサポートしている。

い義務教育学校としてスタートする予定。移行をスムーズに進めるため、昼休みに合唱部が小学校で歌を披露したり、共同で芸術鑑賞をしたりと交流を深めている。また、高林中の生徒会とも交流し、人間関係が固定されがちな小規模校の弱みを互いに補っているのだという。

他に箒根中の強みを尋ねると「なんととっても自校給食。熱々のスープは、少し冷まさないで飲めませよ」と笑顔で話し、スープ入り焼きそばやとて焼きなど塩原ならではの給食を提供していることを教えてくれた。現在も新メニューの開発に打ち込んでおり、次のアイデアを尋ねると「それだけは教えられません。乞うご期待ということ」と語る田崎校長の表情は楽しげで、日々生徒を楽しませようと画策する愛情がにじみ出ている。

全生徒の自己ベスト更新を目指して

来年度から小規模特認校となり、令和5年度からは近隣の小学校とともに義務教育学校へと移行する箒根中。失敗を恐れず、日々挑戦する生徒を全教職員がサポートする。「全全全で自己ベスト」をスローガンに掲げ、「先生たちへの挑戦」など独自の取り組みを展開している――



笑顔あふれる箒根中の教職員のみなさん。(中段右から2番目が田崎校長)

生徒と先生が真剣勝負

給食の時間。音楽が突然鳴り止み、アナウンスが響き渡る。「本日の挑戦のお知らせです。一つ目は卓球団体戦」。放送部員の案内はアナウンサーに引けをとらないほど流暢で、自然と気持ちがかき立てられる。

若手の先生の提案で始まった「生徒たちへの挑戦」。生徒が自らの得意分野で挑戦状を送り、昼休みに先生と真剣に競い合う。「この取り組みを始めてから、校内でのコミュニケーションが増えました」。田崎校長はそう効果を教えてくれた。

これまで繰り広げられた勝負は100m走や将棋、暗算に卓球など多岐に渡り、戦績は9勝6敗で先生に軍配が上がっている。生徒からの挑戦に対し、先生も一切手を抜かず全力で勝負。対決に参加しない生徒も駆け付け、勝負の行方を見守る。「勝っても負けても恨みつこなし。試合が終わればノーサイド」。先生と生徒という立場を越えた交流が壁を取り払い、悩みも相談しやすくなる。「目標は、いじめや不登校のない学校づくり。人間関係がこじれても、必ず最終的に解決することが重要」とゴールを迎える生徒指導の意義を田崎校長は熱く語ってくれ



新鮮な野菜を 今年も各家庭へ ～黒磯那須公設地方卸売市場 初競り～

1月5日、黒磯那須公設地方卸売市場において初競りが行われました。地元で採れた新鮮な野菜が集まる当市場。「ご祝儀価格をお願いします」と競り人の一声で初競りが始まると、買受人の威勢の良い掛け声が響き、会場は活気に包まれました。市内豊町で八百屋店を営む買受人は、「今年は野菜の出来もよく、いい値段。大型店にはないサービスで、地元の野菜を各家庭に届けて行きたい」と抱負を話してくれました。



“夢”を乗せて大空へ！ ～第35回 三島小 凧揚げ大会～

1月18日、三島体育センターグラウンドで、地域の伝統行事「三島小凧揚げ大会」が今年も開催され、約250人が参加しました。普段は寒くて嫌になる風ですが、この日だけは“恵みの風”に。子どもたちは手作りの凧を器用に操り、風に乗せて遥か上空まで上手に飛ばしていました。

大会の最後には、三島小全校児童の夢が書かれた全長4mの大凧が登場。ふわりと空中を舞う圧巻の光景に、会場からは自然と歓声が上がりました。



キャンドルの幻想的な光に包まれて ～第25回 黒磯駅前キャンドルナイト～

12月12日、黒磯駅前通りにおいて、恒例の黒磯駅前キャンドルナイトが開催されました。まちなか交流センターくるるがオープンして初めての開催となった今回。くるるのイルミネーションの光と、キャンドルの優しい灯りが会場を幻想的に包み込みました。中心市街地を盛り上げようと始まったイベントも今回で25回目。平成から令和へ、大きく変わりつつある街の中で、多くの来場者がゆっくりとした時間を楽しんでいました。



親子の笑顔があふれる広場へ ～子育てコミュニティ広場 利用者1万人達成～

子育て中の親と子が集う場所として、昨年8月にオープンした子育てコミュニティ広場。利用者1万人達成を記念して、12月24日に記念セレモニーが行われました。1万人目となった前田恵理子さんは、買い物に来た際にこの広場を知り、週に1回ほど利用しているといい、「子どもたちも気に入っているのでこれからも利用したい」と話してくれました。前田さん親子には、那須塩原ブランド認定品や木のおもちゃが贈られました。



まちづくりビジョンの 策定を進めています

県北の玄関口にふさわしい那須塩原駅周辺のまちづくりや整備を推進するための将来像「那須塩原駅周辺まちづくりビジョン」。その策定に向けて開催された第3回、第4回 有識者会議の様子を紹介します。▶問い合わせ 企画政策課 ☎0287(62)9254

那須塩原の自然と歴史。時代の潮流を踏まえたまちづくりを——

リゾートからリトリート*へという時代の流れは踏まなければいけないと考えています。日本はリノベーション(刷新)は得意ですが、クリエイション(創造)が非常に苦手。そこでの最大の敵はストレスです。

那須塩原が持っているのは、那須塩原にしかできないスーパーリアリティ、すなわち自然の濃密なる存在、それと共存してきた歴史です。その土地を知り、逆らわない、

*リトリート：日常生活から離れ、心身を癒すこと。

そして防災にも配慮した営みが、今の農畜産業という形になっています。那須塩原の場合は、固有の自然が有するここならではのスーパーリアリズムをどう大事にするか、それが市民への一番の説得力になるのではないかと、という気がしています。

リトリートという時代の流れの中で、政府の特区制度などに名乗りをあげ、ありとあらゆる支援をとる、というのが一番良いやり方だなという気がしています。



東京都市大学環境学部 特別教授 滝井 史郎氏

会議では大手IT企業や土地開発業者などさまざまな分野の民間企業から、本市の現状と今後の方向性について意見を頂きました。そのいくつかを紹介します。



- ・新幹線が1時間に1本しかない。駅前にも何もないので、時間を有効に使えない。
- ・高原リゾートのイメージはあるものの、高原のエリアと駅前が物理的に離れている。
- ・那須塩原駅は何もなくかなり絶望的。
- ・低炭素化、脱炭素化、脱化石燃料について、地勢的にやりやすい地域であると思う。

- ・インバウンドへの情報発信が重要。
- ・まちづくりのポイントは、人だと思う。建物ではない。
- ・特色をいかに出すのか。地元の人意見も大事。
- ・駅を降りた時に山が見えるのは、非常にいい。1時間前にでも早く着きたい、という駅にして欲しい。



有識者会議の様子を動画で配信中

那須塩原駅周辺まちづくりビジョン有識者会議の様子を市公式YouTubeチャンネルで配信しています。会議の様子を詳しく知りたい人は、ぜひご覧ください。

*議事録(要旨)はホームページで公開しています。





1 新成人を代表し、誓いの言葉を述べた清水花桃さん(黒磯会場) 2 級友との再会にはじける笑顔 3 凛とした表情で式典に臨む 4 大勢の級友や来賓を前に実行委員が式進行を行う 5 緊張しながらも立派に司会を務めた 6 中学校ごとの記念撮影 7 アトラクションの那須野ヶ原疏水太鼓の演奏には新成人の姿も 8 塩原テレビの取材を受ける新成人 9 思い出のスライドショーに笑みがこぼれる 10 11 12 13 会場内のあちこちで記念撮影をする光景が見られた 14 舞台袖では影アナが式典を支える 15 ロビーには晴れ着姿の新成人があふれた



◆新成人総数 1,230人 ※2019年12月1日時点。
 ◆地区別人数
 黒磯：622人
 西那須野：539人
 塩原：69人

令和4(2022)年の成人年齢引き下げ後も、20歳を対象に記念行事を開催します。

晴 晴れ着に身を包み、黒磯文化会館、三島ホール、ハロープラザの3会場に集まった新成人たち。令和になつてはじめての成人式が、1月12日に行われました。少し肌寒い気温でしたが、各会場には開会前から多くの参加者が集い、級友との再会を喜ぶ姿が見られました。厳肅な雰囲気が始まった式典では、新成人の代表が「感謝の気持ちを忘れず、市で生まれ育った誇りと成人としての決意を心に刻み、力強く歩んでいきます」と誓いの言葉を読み上げ、決意を新たにしていました。それぞれの目標に向かって新たなスタートを切った新成人たち。この門出の日の思い出を胸に、大きく羽ばたいてくれることでしょう。

世界にははたく人間になる



東那須野中学校卒 田野 里奈 さん

縁の下の力持ちとなれるよう精進していきます



高林中学校卒 河原 和樹 さん

笑顔が絶えない人生にする!



西那須野中学校卒 橋本 綾乃 さん

塩原の地域創生



塩原小学校卒 山口 凜 さん

人を笑顔にする看護師



高林中学校卒 笹井 慧 さん

後悔しない人生を



三島中学校卒 岡山 日向 さん

素敵な保育士になります



箒根中学校卒 櫻岡 玲奈 さん

考えるだけでなく行動を起こす

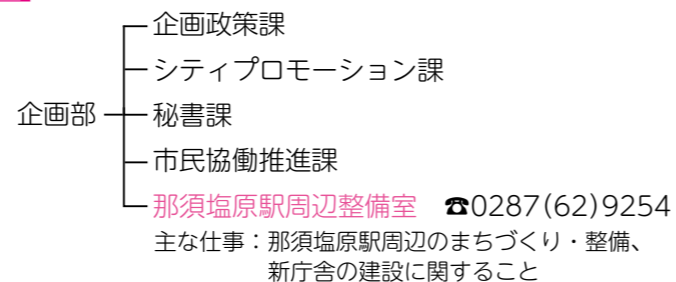


日新中学校卒 平本 廉 さん

新成人に聞きました!
 あなたの夢は何ですか?

4 「那須塩原駅周辺整備室」を設置

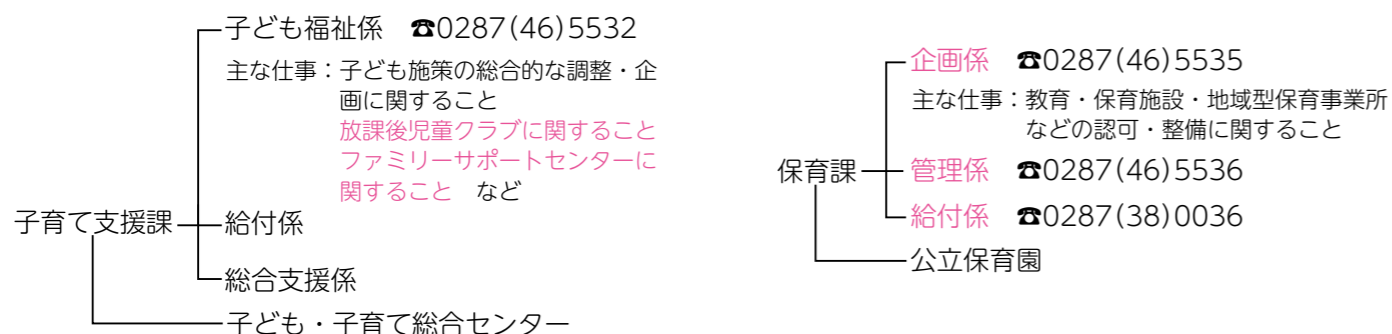
那須塩原駅周辺のまちづくりについて、新庁舎建設と一体的に取り組む必要があるため、企画政策課の「庁舎準備室」と都市整備課の「駅周辺整備室」を統合し、企画部に「那須塩原駅周辺整備室」を設置します。



5 「子ども未来部」を再編

効率的な事務を行うため子育て支援課と保育課の事務を再編します。

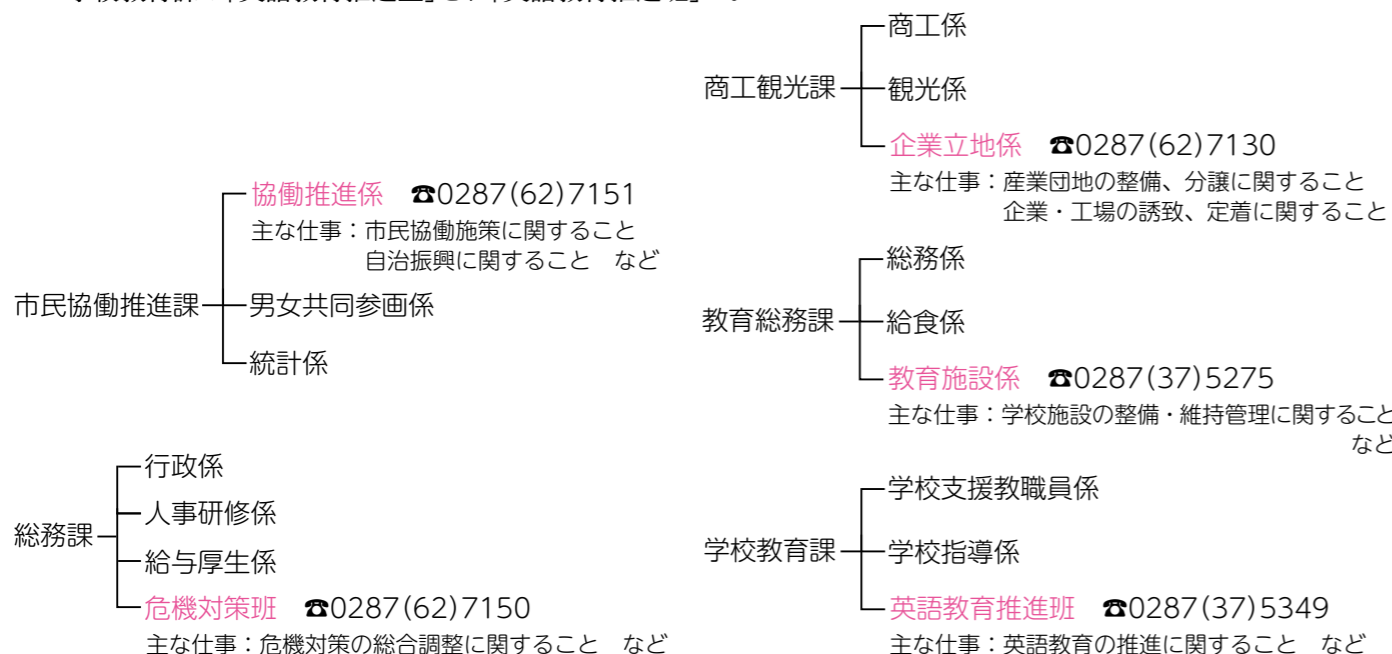
- ・保育課に「企画係」を設置し、「保育管理係」を「管理係」、「保育給付係」を「給付係」に名称変更。
- ・子育て支援課の「子ども福祉係」へ保育課の「児童係」を統合。



6 課内室を、それぞれ必要な組織へ移行

組織の合理化を図るため課内室を、それぞれ必要な組織へ移行します。

- ・市民協働推進課の「協働のまちづくり室」を、「協働推進係」へ。
- ・総務課の「危機対策・放射能対策室」を、「危機対策班」へ。
- ・商工観光課の「企業立地室」を、「企業立地係」へ。
- ・教育総務課の「学校整備推進室」を、「教育施設係」へ。
- ・学校教育課の「英語教育推進室」を、「英語教育推進班」へ。



4月1日から 市役所組織の一部が変わります

▶問い合わせ 企画政策課 ☎0287(62)7106

制度改正などによる喫緊の課題への速やかな対応や市長政策マニフェストの推進を図るため、行政組織機構の一部見直しを行います。

1 「戦略推進局」を設置

近年の多様化、複雑化する行政課題に対する市長の政策的な方針・戦略に基づく特命事項をスピード感を持って推進するため、「戦略推進局」を設置します。

戦略推進局 ☎0287(73)5830
主な仕事：市長の特命事項の調整や推進に関する事

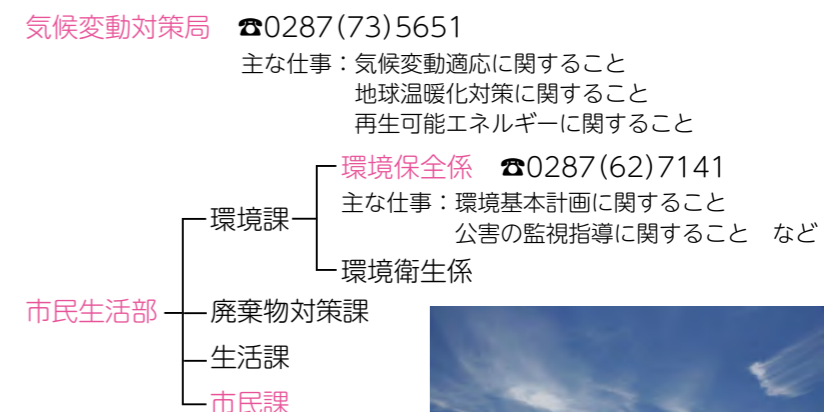


2 「気候変動対策局」を設置し、「生活環境部」を再編

気候変動適応などに係る施策に積極的に取り組み、将来にわたって持続可能なまちづくりを推進するために、「気候変動対策局」を設置します。

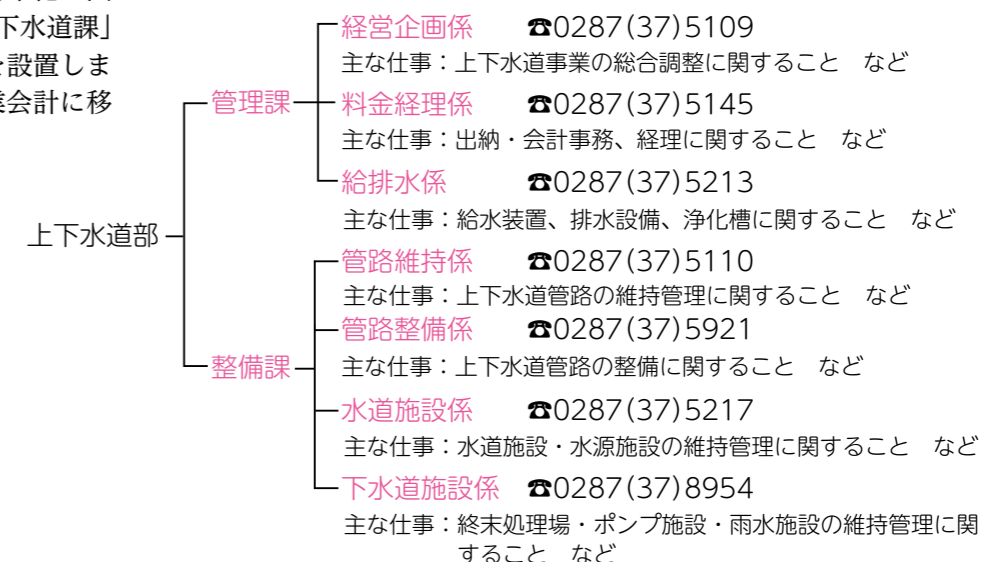
それに伴い、環境課の「環境企画係」と「公害対策係」を統合し、「環境保全係」を設置します。

また、「生活環境部」を再編し、保健福祉部の「市民課」を生活環境部へ移行し、部名を「市民生活部」に変更します。



3 上下水道部を再編

市民サービスの向上や事務の効率化を図るため、上下水道部の「水道課」「下水道課」を再編し、「管理課」と「整備課」を設置します。また、下水道事業を公営企業会計に移行し、経営の健全化を図ります。



※水道料金、下水道使用料などの料金収納や開閉栓に関する事 ☎0287(37)5100



お便りBOX

皆さんからいただいたお便りを紹介します。
今後の広報誌づくりの参考にさせていただきます。

◆ 広報12月5日号の「帯川の緑色凝灰岩」が勉強になりました。台風のと、あのような川の色となり、たまげたのですがなるほどと思いました。家の方の上流は砂利がありあんな景色にはなりません。那須塩原市も広くなり、広報誌なども他人事のような感じが多いのですが、ありがとうございます。

R・Kさん(上塩原 90代男性)

◆ みいなさんの12月号に市長さんがチーズフォンデュを召し上がったの写真をみました。そのチーズを作っているチーズ工房で、すごい事が起こったんです!! 戸田にあるチーズ工房須の森をご存知でしょうか? 昨年世界チーズコンクールで最高位のスーパーゴールドでした。店舗に何とと平静そのもので、地味な雰囲気はこちらの方が逆にビックリしました。もう少し大きさにふるまっても良いのに。と。手間暇をかけているこのチーズ、本当においしいですよ!! 編集後記の反省感想が大好き。とてもステキです。広報誌から知らなかったことをたくさん教わっています。

テコテコさん(鍋掛 60代女性)

◆ 「ちっちゃな自然に出てくるカエルや昆虫が苦手」という意見にとてもびっくりしました。こんなに虫に向ける温かい目にはほっこりするコーナーなのに! 虫や星が好きなお子様の方が学力が高いという話を聞いたことがある気がするのでこれからもなるべく掲載してください。ただ、自然と共生するような農家の方(無農薬・無肥料・無堆肥)やホルモン剤・抗生物質を使わない酪農家がいたら、ぜひ取り上げていただきたいです。

奈良時代さん(豊町) 30代女性

Q. あなたが好きなコーナーはどれですか? (複数可)

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. 表紙 | 2. 特集 |
| 3. 行政 info | 4. タウンピックアップ |
| 5. 子育て連絡帳 | 6. チャイルドトピックス |
| 7. 健康だより | 8. 図書館へ行こう! |
| 9. お便りBOX | 10. なすしおばら珍百景 |
| 11. ちっちゃな自然 | 12. 編集後記 |
| 13. げんきびと | 14. ものづくり若人 |
| 15. 私のまちの近い遺産 | |

広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題や記事などをお書きください。

募集中

お便りBOX



皆さんの声を紙面で紹介します

皆さんからいただいたお便りを紙面で紹介していきます。広報なすしおばらを読んだ感想、取り上げて欲しい話題などを投稿してください。



※応募ははがきかQRコードから。

なすしおばら 珍百景

あなたの"珍"がまちの魅力に?

あなたの身の回りの"珍"な光景、出来事、思い出などの写真を募集します。その1枚が新たな魅力の発見につながるかも。

※応募は次ページのQRコードを参照してください。

※いただいたご意見は、内容を変えない範囲で添削させていただく場合があります。
※紙面の都合上、掲載できない場合がありますのであらかじめご了承ください。

図書館へ行こう!

図書館 HP



黒磯図書館は、3月31日(火)まで学習室(会議室・視聴覚室)と返却ポストのみ利用できます。貸し出し・予約などは西那須野・塩原図書館、各分室を利用してください。



NEW!

『農業高校へ行こう!』

監修: 全国農業高等学校長協会 家の光協会
受験生はもちろん、一般の人にも興味深い、全国の農業高校や生徒たちのユニークな取り組みが満載。そのほか、那須拓陽高校の一日体験入学の話も掲載されています。
農業高校ってどんなところ?



『ラグビー語辞典』

著: 齊藤健仁 誠文堂新光社
W杯ラグビーをご覧になりましたか。夢中で応援しながらもよく分からなかったラグビー用語を、詳しくやさしくイラスト付きで用語解説。これであなたもラグビー通!?
ラグビーにわかファン卒業?



『たいこ』

ぶん・え: 樋勝朋巳 福音館書店
トントンたいこをたたいていると、仲間がどんどん増えてきて、たいこの音もトントン、ポコポコ、ペタペタと次第に増えていきます。どんどん音が増えてきて、最後は…。
リズムカルな音が楽しい1冊です!



『ローマ字学 世界のアルファベットのひみつが分かる!』

著: 稲葉茂勝 監修: 倉島節尚 今人舎
ローマ字って何? とした素朴な疑問や英語のABC...との違いなど、さまざまな視点からローマ字について解説した1冊。子どもはもちろん大人もためになる知識が満載です。
ローマ字の不思議を解き明かそう。



『人生の歩きかた図鑑』

著: 石井光太 日本実業出版社
不登校、貧困、家庭の問題、いじめ、進路、人間関係…。たくさん問題を抱えて生きる子どもたちへ、解決の糸口をつかむきっかけになる一冊。悩んでいるあなた、ぜひ一読を。
悩める10代のためのお助けガイドブック



おはなし会と工作会 「ポストくんと飛び出すカード」

おはなし会の後に工作会を行います。ハサミを使った作業はないので小さな子どもでも安心です。

- ▶ とき 2月8日(土)・15日(土) 午前10時30分~正午
- ▶ ところ 塩原図書館 ▶ 対象 幼児・小学生
- ▶ 参加費 無料
- ▶ 定員 15人(当日受け付け)
- ※定員になり次第締め切り。
- ▶ 問い合わせ 塩原図書館

塩原図書館



ちょこっとコラム

私が学生だった20年前、インターネットが一般に普及し始めた頃でしたが、まだまだ「調べ物は図書館」という時代でした。黒磯図書館には、ちょっとマニアックな資料も豊富にあり、新たな知識と出会えたことをよく覚えています。今はスマホなどで誰でも簡単に情報が得られるようになりましたが、新しい知識と出会う喜びは普遍的なものです。那須塩原市図書館(みるる)は、こういう時代ならではの新しい知識との出会いやコミュニケーションを演出する図書館を目指し、鋭意準備中です。



▲バックナンバーはこちら

塩原に冬が来た
～オオムラサキの幼虫越冬準備～



突起が4列のオオムラサキ幼虫 撮影時期:2019.11 撮影場所:箱の森

ゴマダラチョウの越冬幼虫

同じエノキの下で、ゴマダラチョウの幼虫に出会いました。幼虫は、オオムラサキと同じエノキの葉を食べて成長します。違いはというと、背中にある突起の数で見分けます。4列が、オオムラサキで、3列がこの幼虫、ゴマダラチョウです。塩原では、オオムラサキより数は少ないようです。



突起が3列のゴマダラチョウ幼虫

昨年の11月中旬、この冬初めて箱の森にも雪が舞いました。「いよいよ、塩原にも冬が来たのかな？」と思いつつながら帰宅した次の日、冬の使者を捜しに、いつもの箱の森探検を行いました。
昨年は梅雨時期から雨が多く、県内でも台風の大きな被害を受けました。そんな影響もあってか、いつもは夏に何度かある、彼らとの出会いがありませんでした。無事に産卵してくれているのか心配して、この日の探検です。そして、急斜面のエノキの下にたどりつきました。
木の回りには、落とされた葉がいつものように積もっていました。それを一枚一枚めくっていくと、いました。オオムラサキの幼虫です。「今年も、降りてきてくれたんだ！」と、大声で叫ぶと、体がグラリと傾きました。そうです、ここ急斜面だったのです。忘れていました。
オオムラサキの幼虫は、寒くなると、夜一斉に木を降り、木の回りに落ちた葉の下で、冬を越す準備を始めるというちよっと変わった習性を持っています。この日は10匹の幼虫を確認できました。今年も、無事に産卵してくれたオオムラサキに感謝です。来年の春には、再びエノキに登り、夏の再会を楽しみに待ちたいと思います。
今度は小声で「寒いけど、ガンバレ！」と声をかけ、道路へもどると、ビューと北風が吹きました。塩原への冬の到来を確信した、そんな一日でした。 あきお

編集後記

先 月末で黒磯図書館が閉館し、32年の歴史に幕を閉じました(閉館イベントの様子は3月5日号で紹介する予定です)。黒磯図書館は昭和62年10月に開館しているので、その年6月生まれの私は4か月ほど先輩にあたります。子どもの頃、親に連れて行ってもらったり、高校時代に受験勉強で通ったり、そして、この前の閉館イベントには2人の娘を連れて人形劇を見せに行ったりと、思い出多い図書館です。そんな図書館がなくなるのは少し寂しい気はしますが、新しい図書館が7月にできるので、今からとても楽しみです。(平石)

成人式と言えば、晴れやかな振袖姿。私自身、振袖よりも後々使えるようにとスーツを選びましたが、振袖を着なかったことをちょっぴり後悔したこともあり。今回、成人式の取材に行くために選んだ1着のジャケット。会場に向かう車の中でふと…。『あれ? このジャケットって、もしかしてあの時の??』そう、まさに〇年前に自分が成人式で着たスーツだったのです。いやあ、着れてよかった～! と思うと同時に、仕立ててくれた親に感謝するばかりでした。新成人の皆さん、おめでとうございます。(大貫)



あなたの"珍"を募集中

＜応募方法＞

方法① きらきらホット なすしおばらに投稿
珍百景投稿用フォームに必要事項を入力。



方法② シティプロモーション課に電話
☎0287(62)7109

●必要事項

住所、氏名(ペンネーム)、電話番号、年齢、性別、珍百景写真、タイトル、撮影日、コメント(100字程度)

●注意点

※人権侵害、政治・宗教活動、意見広告や宣伝につながるものなど、掲載できない内容があります。
※内容を変えない範囲で添削する場合があります。
※被写体の人物または所有者などに許可を得てから応募してください。
※インターネットなどからの転載はご遠慮ください。
※応募いただいた写真は市の情報発信活動に使わせていただく場合があります。

今世紀最大



投稿者 西村伸一さん(40代男性 本町)

撮影場所 本町(撮影日 2018.11)

これを超えるねじれはあと80年お待ちください。

TOCHIGI eBOOKS
栃ギイーブックス
栃木県のすべてがそろった"電子書籍"ポータルサイト「トチギイーブックス」
Event情報
栃木県のイベント情報コーナー!
栃木県民のイベント情報

"Tochigi ebooks"で広報誌の配信を開始しました。パソコンやスマートフォン、タブレット端末で広報なすしおばらを読むことができますので、ぜひご覧ください。

Tochigi ebooks とは

県内の自治体が発行する広報誌などを電子書籍化し、無料閲覧できる地域特化型電子書籍ポータルサイトです。

check!!



3 2 5 8 5 0 1

お手数ですが
63円切手を
貼ってください

那須塩原市役所
シティプロモーション課
「広報なすしおばら係」行

ご住所 □□□□□□□□

那須塩原市

※掲載する場合は実名ではなく、イニシャルまたはペンネームで掲載します。

フリガナ
お名前

ペンネーム
(希望者のみ)

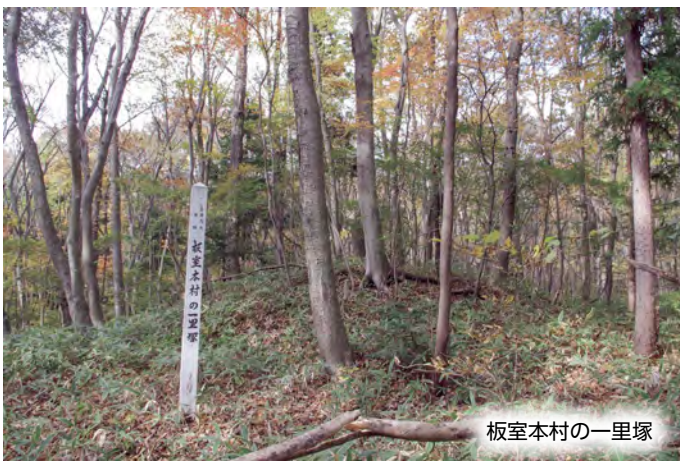
☎電話

年齢

歳

性別

男 ・ 女



板室本村の一里塚



笹野曾里東の一里塚



会津中街道



横林の一里塚

私のまちの
近い
世界遺産

行けばわかるさ
～一里塚 昔の旅のキロポスト～

▶ 問い合わせ
函生涯学習課
☎0287(37)5419

平成8年に文化庁が認定した「歴史の道100選」に、昨年10月、会津中街道が追加選定されました。市内をはしる会津中街道には今も多くの一里塚が残されています。

Topic

湯治で完治！？

板室本村の湯本道標は、会津中街道板室宿から板室温泉への道しるべとして天保7(1836)年に建立されました。伝承によると、湯治に訪れた足の不自由な人がこの温泉で完治したことに感激し、同じ病に苦しむ人々のために建てたとされています。

今より医療が発達していなかった時代、元気に歩けるようになった喜びは今より大きかったのかもしれない。



板室本村の湯本道標

一里塚とは、旅行者の目印として大きな道路のそばに1里(約3.9km)毎に設置した塚(土盛り)のことです。本来は街道の両側に對で設置されるものですが、開発などのため、道の片側のみとなってしまっているものも少なくありません。市内では7カ所の一里塚が文化財に指定されており、今回追加認定された会津中街道にはそのうち5カ所の一里塚があります。

会津中街道は、奥州道中氏家宿と会津若松城下を結ぶ街道です。下野の今市宿から若松城下に至る会津西街道が先に存在していましたが、天和3(1683)年の日光大地震で五十里湖が出現し、会津西街道をふさいでしまったため、代わりとなる道として元禄8(1695)年に整備されました。板室や三斗小屋を通る険しい山越えの道で、一里塚は、氏家宿から会津若松に向かう順に、下大貫の一里塚(一対)、横林の一里塚(二対)、笹野曾里西の一里塚・笹野曾里東の一里塚、板室本村の一里塚があります。

会津中街道は戊辰戦争の際、会津藩などの旧幕府軍と新政府軍との激戦地となっています。一里塚が今も残っているのは貴重なことかもしれませんね。